



古里小学校

奥多摩の教育

第228号

発行

奥多摩町教育委員会

令和4年6月1日現在

児童数 147名

生徒数 57名

教職員数 45名



氷川小学校



奥多摩中学校



令和4年度は小学生20名、中学生18名が入学し、新しい学校生活が始まりました。学びの保障としっかりとした感染対策とを両立しながら、これからも充実した教育活動を進めてまいります。町の宝である"おくたまっ子"の健やかな成長を願います。



令和4年度奥多摩町教育委員会の教育目標・基本方針

奥多摩町教育委員会では、憲法、教育基本法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、その他の教育関係諸法令並びに東京都教育委員会の方針等に基づき、町の現状と課題を踏まえて、教育目標と方針を定めています。

本年度、最初の発行にあたり、皆様に改めてお知らせするとともに、子どもたちにとって将来を見据えたより良い教育環境の実現のために教育行政を推進してまいります。

【教育目標】

互いの人格を尊重し、心身ともに健康で、かつ、知性、感性、道徳心に富んだ豊かな人間性を身に付け、広く国際的分野に貢献しようとする意識をもった町民の育成に努める。

自ら学び、自ら考え行動する、個性と創造力豊かな人間の育成に向け、学校教育、社会教育を充実し、生涯にわたって学習の場が得られるよう教育行政を推進する。

町の基本構想を指針とし、長期的展望に立って教育・文化・体育等の諸施策の充実に努め、町民憲章に定める目標の実現を目指す。

基本方針

奥多摩町教育委員会は「教育目標」を達成するために、以下の基本方針に基づき、教育施策を推進する。(各方針の説明については抜粋してあります。)

基本方針 1

「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成

子どもたちが、自尊感情をもち、全ての命を大切にし、人を思いやり、社会の決まりを身に付けて健やかに成長できるように、郷土を愛し、自立した個人を育てる教育を行う。

基本方針 2

「確かな学力の定着」と「個性や創造力の伸長」の推進

確かな学力の定着と、個性と創造力を伸ばす教育を実践することにより、グローバル化社会、情報化社会に対応することができる子どもを育成する教育を推進する。

基本方針 3

「総合的な教育力」と「生涯学習」の充実

家庭・学校・地域の教育力を高め、その連携の推進を支援するとともに、町民が生涯を通じて、自ら学び、文化・スポーツに親しみ、社会参加する機会の充実を図る。

基本方針 4

「町民の教育参加」と「学校経営の改善」の推進

地域の特性を踏まえた広域的な視点に立つ教育行政を進めるとともに、町民に信頼される魅力ある学校づくり、開かれた学校づくりを目指した学校経営を支援する。

基本方針 5

「伝統文化の保存」と「郷土愛育成」の推進

郷土を知り、郷土を愛する心を育成し、町の発展に寄与しうる町民を育てる。

【学校教育の指導目標】

◎…令和4年度重点目標

～通いたい、通い続けたい、通わせたい学校へ～

確かな学力

- 1 個に応じた指導の徹底
- ◎2 主体的・対話的で深い学びの推進
- 3 外国語教育の推進
- ◎4 ICT 機器を活用した協働的な授業づくり
- 5 保・小・中の一貫性のある指導の推進
- 6 家庭学習の充実
- 7 読書活動の推進

豊かな心

- 1 自他を大切にする心の育成
- 2 自尊感情・自己肯定感の向上
- ◎3 いじめ・不登校の未然防止、組織的な対応

健やかな体

- ◎1 心と体の健康の促進
- 2 適切な食習慣、運動習慣の定着化

令和4年度 教職員の人事異動がありました

令和4年4月1日現在

Table with columns: 学校名, 転出者 (担当, 氏名, 新任校等), 転入者等 (担当, 氏名, 前任校等). Rows include 古里小, 氷川小, 奥多摩中, and 給食センター.

古里小学校に着任して



古里小学校 校長 乙津 秀敏

この度、古里小学校に着任しました乙津秀敏です。昨年度まで檜原小学校で5年間校長職を務めていましたが、その前の6年間はこの古里小学校の副校長でした。...

美しい山並みと古里小学校



古里小学校 副校長 藤田 誠司

この4月より、八王子市立長沼小学校より異動して参りました。あたたかく迎え入れていただいた皆様には感謝しております。...

自分ができることを

古里小学校 北沢 彩

今年度、神津島の神津島村立神津小学校から異動してきました。北沢彩と申します。海に囲まれた神津島から、山や川に囲まれた自然の地域で勤めることができ、嬉しく思っています。

私がこれまで経験してきたことが、少しでも子どもたちの成長への糧になればと思います。そして子どもたちが、「できた。」「わかった。」と実感できるように努めていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

自然豊かな奥多摩町

古里小学校 翠 隆寿

教室から見える自然の豊かさと、明るく素直な子どもたちに日々元気をもらいながら過ごしています。町の方も初めて異動してきた私にとっても親切に色々なことを教えてくださり、より奥多摩町のことを知ることができました。奥多摩町の子どもたちのためにこれまでの経験や知識を生かして貢献していきたい

と思います。

よろしくお願ひします！

氷川小学校 松本 隆弘

都立武蔵台学園府中分教室より参りました。教員二十年目となる節目の年を大好きな奥多摩町で迎えることができ、これ以上に意気に感じることはありません。特別支援教室「あおぞら」の担任として氷川小学校と古里小学校の兼務をしています。子どもたちが楽しく学べる教室環境の整備及び保護者の方々安心して子どもを預けられる教室経営に努めていきます。今後とも、奥多摩町の特別支援教室「あおぞら」をよろしくお願ひします！

よろしくお願ひいたします

氷川小学校 平野 正晴

檜原村立檜原小学校事務室から氷川小学校事務室に異動してきました。

氷川小学校も檜原小学校と同様に児童数が少ない小規模学校ということ、子どもたちと仲

良くできれば良いなと思います。

また、奥多摩町は町として教育に力を入れている自治体という印象を受けました。

事務職として、教職員と連携し、子どもたちがより良い環境で学習できるようにお手伝いできればと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

初心に戻った気持ちで

奥多摩中学校 竹村 恭介

今年度4月より、奥多摩中学校に赴任しました。よろしくお願ひいたします。

前任校は、ひとつの学年が5、6学級、全校生徒600人近い大規模校でした。4月下旬に離任式に参加した際には、改めて人数の違いを感じました。

生徒数の多い少ないで、優劣は無いと思います。生徒数が少なくても長所はたくさんあり、日々それを感じています。また奥多摩中の生徒たちが多人数集団に飛び込んでいった時にも、たくましく生きていく力を付けていきたいと思っています。

念願かなって

奥多摩中学校 三輪 佳子

瑞穂町立瑞穂中学校から異動いたしました、三輪佳子です。担当教科は社会科です。登山が趣味でもあり、今までの授業で日本の山地・森林の重要性を伝え、「NO奥多摩NO東京」と言い続けていた私が念願の奥多摩町に赴任することになり、大変嬉しく思っています。

豊かな自然、学習機器の充実、恵まれた環境の中で私自身が多くのことを学び、郷土を愛し誇りに感じる事ができる生徒たちの育成に少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

奥多摩に赴任して

奥多摩中学校 東 裕志

本年度、八王子市の檜原中学校から赴任してきました、東裕志です。よろしくお願ひいたします。

私の教科は、技術科です。この奥多摩の自然の中で、教科の

特性を生かしながら、ものづくりの楽しさ（木工・電気製作）や生物育成（植物の栽培）と一緒に学びながら、一生懸命に努力し前向きに取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

大切にしたい自立活動

奥多摩中学校 秋川 光彦

本校に着任して、はや一か月となりました。本校では、特別支援学級D組の担任を担当しています。

特別支援学級の重要な授業の一つに、自立活動があります。自立活動は、日常生活や学習場面でのさまざまなつまづきや困難を改善していくため、また人間として基本的な行動を行うために必要な要素について学びます。

授業をデザインするとき、難しいですが、大切にしたいことがあります。それは、生徒が楽しみながら、学んだことを生活の中で活かせるような授業にすることです。

挑戦し続ける一年目

奥多摩中学校 加藤 翼

はじめまして、奥多摩中学校に着任しました、加藤翼です。昨年度までは高知県で大学院に通っていました。今年が教員人生一年目となります。執筆時点では、着任から一か月経っており、教員生活にも少し慣れてきました。常になんか新しい学びが多く、刺激的な日々を過ごしております。私は生徒一人ひとりの個性や可能性を最大限引き出し、明るい未来を自ら切り開くことができるように支援していきたいと思っています。また、生徒に負けないくらい元気よく学校生活を送り、新しいことに挑戦し続けたいと思います。

教員としての第一歩

奥多摩中学校 三浦 実結

今年度、新規採用として奥多摩中学校に着任いたしました。三浦実結と申します。奥多摩中学校に勤務して、おそ一か月が経ちました。初めてのことがばかりで戸惑うことも

ありますが、教職員の方々や、生徒たち、保護者や地域の皆様に支えられていることを、実感する毎日です。

奥多摩町という素敵な環境で働けることに誇りをもち、自分にできることを、全力で取り組んでいきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

奥多摩町の元気印に

奥多摩中学校 青木 鈴佳

今年度、新規採用で養護教諭として着任いたしました、青木鈴佳と申します。

昨年度の半年間は、氷川小学校の育休代替として勤務してました。純粋でたくましい子どもたちと過ごせた日々は私にとって宝物でした。任期満了がとも名残惜しいと思っていたところ、引き続き奥多摩町で養護教諭をすることができ、とても嬉しいです。

奥多摩町の子どもたちが日々、健康で安全な学校生活を送れるよう養護教諭として尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひします

学校給食センター 栄養士 谷口 菜々実

栄養士として着任いたしました、谷口菜々実と申します。今年度から新社会人となり緊張していますが、自然豊かな奥多摩町で働くことができ、大変嬉しく思います。

給食センターの栄養士として、栄養バランスが良く安全なだけではなく、美味しく楽しい給食を目指します。

まだまだ学ぶことも多いですが、奥多摩町の子どもたちが毎日元気に過ごすことができるように、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



令和4年度
学校施設整備について

令和3年度において、古里小
学学校東側トイレ改修工事及び
氷川小学校特別教室エアコン設
置工事が完了しました。

今年度は、氷川小学校西側ト
イレ改修工事及び奥多摩中学校
体育館トイレ改修工事ならびに
奥多摩中学校特別教室エアコン
設置工事を実施し、児童・生徒
が安全で快適な学校生活が送れ
るよう教育環境の向上を図って
いきます。

教育委員会の動き

(令和3年11月～令和4年4月)

- ◎11月定例会(11月25日)
 - ・議案第24号―奥多摩町立学校区域外就学の承認について他協議事項一件
- ◎12月定例会(12月23日)
 - ・議案第26号―指定校変更申請の承認について
- ◎1月定例会(1月14日)
 - ・教育長報告・教育課長報告他
- ◎2月臨時会(2月9日)
 - ・議案第1号―奥多摩町立学校長及び副校長の任命について
- ◎2月定例会(2月28日)
 - ・議案第2号―奥多摩町スポーツ広場等に関する条例の一部を改正する条例他3議案
- ◎3月定例会(3月24日)
 - ・議案第6号―奥多摩町スポーツ賞表彰候補者の審査について他1議案
- ◎4月定例会(4月21日)
 - ・議案第8号―専決処分の承認を求めることについて(令和4年度児童・生徒の教育課程について(届))他2議案

＊教育相談室より＊

願

相談員 原島 富子

新型コロナウイルスの感染予
防に対する対策は、まだまだ気
を緩めることができない状況で
はありますが、4月からピカピ
カの新入生を迎え新しい年度が
スタートしました。例年と違い
行動様式にまだ制限があると思
いますが、子どもたちには、遠
足や運動会などいろいろな行事
を通して、先生方やお友だちと
の思い出を沢山作れますよう
願っています。

保護者の皆様には、日ごろの
おしゃべりや言葉かけなど、子
どもたちの成長を見守り、応援
していただければと思います。
今年度、教育相談室では、2
人のスクールソーシャルワ
ーカーと相談員2人のスタッフで、
お子様の育て方や発達について
のお悩みやお子様自身の相談に
応じています。ご自宅にお伺い
することもしています。
どうぞお気軽にご相談くださ
い。

＊教育相談室のご案内＊

【場 所】奥多摩町福祉会館2階
【開室日】月～金曜日
午前9時～午後4時

お休み土・日・祝日・年末年始

【相談の形】

○来室相談 ○電話・メール相談
※来室相談は、電話、FAX、メ
ール等で予約をお願いします。

【相談例】

・学校生活や日常生活でのお子様
への心配(学校に行けない、登
校渋り、友達と上手く遊べない、
困った癖があるなど)

・お子様の発達に関するご相談
(言葉の理解や発達が遅いよう
に感じる、勉強に意欲が出ない、
学力面について等)

【その他できること】

・福祉手当やサービス、相談機関、
医療機関などのご紹介

・お子様への指導・支援など

【FAX】(83)12340

【メール】

okusoudan@town.okutama.
tokyo.jp

令和3年度奥多摩町学校給食センターの運営と決算報告

令和3年度は、年間給食回数、小学校192回・中学校194回を実施し、総食数は53,519食（小学校36,100食、中学校17,419食）を提供しました。前年と比較すると3,321食増加しました。

栄養面では、全体にバランスのとれた内容になるよう献立を工夫し、旬の素材を使用した、できるだけ手作りの給食を提供するように努力しております。また、調理後短時間で提供できるように努め、衛生面には特に注意を払っております。

給食費については、小学校は月額、低学年（1・2年生）4,100円、中学年（3・4年生）4,400円、高学年（5・6年生）4,700円、中学校は月額5,600円として運営しました。保護者の皆様からいただいた給食費は全て食材料費として使われ、1食当たりの食材料費は約280円となりました。また、収支差引残額については、食材料の価格変動等があることから、次年度に繰越しをさせていただいております。

食材料費以外の人件費、光熱水費等については、全て町で負担しております。なお町では、子ども子育て支援推進事業の一環として、給食費の全額助成を行っており、保護者の皆様には一旦納入をお願いいたしますが、後から助成が行われております。

令和3年度奥多摩町学校給食センター会計収支決算書

自令和 3年4月 1日
至令和 4年3月31日
(単位:円)

収入の部

科	目	予算額	収入済額	比較増△減	説	明
1	給食費	15,596,060	15,802,260	206,200		
	1 児童給食費	7,041,860	7,080,420	38,560	古里小 氷川小 過年度分	4,308,460 2,771,960 0
	2 生徒給食費	4,065,600	4,121,600	56,000	奥多摩中 過年度分	4,121,600 0
	3 職員給食費等	4,488,600	4,600,240	111,640	古里小 氷川小 奥多摩中 センター 試食等	1,310,600 1,121,160 1,502,720 662,880 2,880
2	繰越金	47,835	47,835	0		
	1 繰越金	47,835	47,835	0	前年度繰越金	47,835
3	雑収入他	1,105	11	△ 1,094		
	1 雑収入	1,105	11	△ 1,094	預金利息	
合	計	15,645,000	15,850,106	205,106		

支出の部

科	目	予算額	収入済額	比較増△減	説	明
1	主食費	2,050,600	1,993,475	△ 57,125		
	1 米穀費	1,156,000	1,168,063	12,063	古里小学校138回、氷川小学校145回、中学校142回	
	2 麺類費	257,000	166,942	△ 90,058	古里小学校15回、氷川小学校15回、中学校15回	
	3 パン類費	637,600	658,470	20,870	古里小学校33回、氷川小学校32回、中学校37回	
2	副食費	10,548,000	10,422,194	△ 125,806		
	1 副食費	10,548,000	10,422,194	△ 125,806	古里小学校186回、氷川小学校192回、中学校194回	
3	牛乳費	2,980,000	3,214,285	234,285		
	1 牛乳費	2,980,000	3,214,285	234,285	古里小学校186回、氷川小学校192回、中学校194回	
4	返還金	30,000	0	△ 30,000		
	1 返還金	30,000	0	△ 30,000		
5	手数料	3,000	0	△ 3,000		
6	予備費	33,400	0	△ 33,400		
合	計	15,645,000	15,629,954	△ 15,046		

収支差引残金

220,152 円

郷土奥多摩(文化財)

その24

宝曆箱訴事件

大丹波村牢死者供養碑

文化財保護審議会委員

小林奈都美

今回の郷土奥多摩では、都指定有形文化財「宝曆箱訴事件大丹波村牢死者供養碑」を紹介し



宝曆箱訴事件
大丹波村
牢死者供養碑

この石碑は、大丹波地区の覚雄山輪光院の境内にあります。輪光院は、氷川方面より青梅街道を青梅方面に向かい、奥多摩大橋が見える川井の交差点を左折し、大丹波道へ入り、「北川橋」バス停から90mの場所にあります。

この事柄は、江戸時代中期、8代將軍徳川吉宗から10代將軍徳川家治の時代に起きました。8代將軍吉宗は、1721年に一般庶民に幕政についての意見

を求めるために評定所前に目安箱を設けたことで有名です。当時、大丹波村は天領(幕府直轄領)でしたが、1747年、田安領となりました。大丹波村と田安家の関係は、この時に始まります。奥多摩町で田安領に含まれたのは大丹波村だけでした。田安領になったころの大丹波村は、畑作を中心に農業を営み、農業の合間には炭焼きなどに励み、静かな村里の生活が営まれていました。編入当時は、天領の時と同じ租税で、税額は17貫21文1分でしたが、度重なる増税により、宝暦11年(1761年)には、38貫36文7分となりました。その間も郡奉行、代官、家老に何度も減免を訴えましたが、全く聞き入れられませんでした。しかも、不作で納税が難しい状況でした。この年、年番名主であった七郎左衛門は、先頭に立って田安領19か村を糾合して、將軍家へ直々の箱訴を計画することになったのです。七郎左衛門は、周到な計画を立てて、村々別々に19通の訴状を書くこと、直接に田安家を誹謗することなく、年貢の取り立て役

である青梅村名主小沢弥左衛門他10人の者を矢面に立て、翌年、江戸に赴き、訴えたのでした。2度の箱訴も「納税を怠りながら訴えを繰り返すのは極めて不届きなこと」と代表者は直ちに投獄させられ、箱訴を先頭に立って導いた大丹波村の出身者に対する取り調べは、ひどく厳しいものだったようで、投獄・召喚された者のうち、七郎左衛門、政右衛門、長兵衛、六郎左衛門は、判決前に牢死を遂げています。1763年8月には判決書である「御裁許」が出されました。19か村の最大の問題であった田畑の増税赦免は「御沙汰に及ばせられず」と認められず、わずかに雑税に認められた程度でした。しかも、その犠牲は極めて大きく、召喚入牢を申し付けられたものは、19か村中266名で判決前に牢死した人は11名、そのうち4名が前述した大丹波の代表者たちでした。



この供養碑の碑面には、3名の戒名が刻まれています。二俣尾の海禅寺の日めくり供養の過去帳から、3名は牢死した七郎左衛門、政右衛門、長兵衛と知ることができますが、牢死した残り1名の六郎左衛門の戒名は不明です。3名の死後間もない時期に、輪光院境内に建立されました。碑文石・台座ともに石灰岩の自然石です。江戸中期の多摩地区の歴史を語る上で忘れることのできない「宝曆箱訴事件」の関係資料として、また大丹波村がその運動の中心となり、その後の百姓一揆の先駆をなす事柄としても、とても貴重なものです。この供養碑の隣には昭和51年に建てられた「義民顕彰之碑」があります。大丹波の皆さんが、先人たちの義挙を想い顕彰するものです。

【参考文献 奥多摩町誌】

左から 宝曆箱訴事件大丹波村
牢死者供養碑・義民顕彰之碑・大丹波村義民顕彰会碑文